笑顔が教えてくれたこと

長井市立長井北中学校　二年　高橋　すみれ

「心の輪」と聞くと、私は人と人とのつながりを思い浮かべます。私はこれまで、たくさんの人と関わる中で、相手のことを知ることや、相手の立場になって考えることが、心の輪を広げるために大切なのだと感じた経験があります。私は、リーダー研修会というボランティアグループに参加しています。そこでは、地域の人たちと交流したり、さまざまな体験をしたりする活動を行っています。その中でも、私が特に心に残っているのが、福祉センターでの活動です。

毎年、私たちは福祉センターを訪れ、高齢者の方や、身体を自由に動かすことが難しい方と一緒に、ボッチャというスポーツをします。初めて参加する前の私は、身体が自由に動かない人に対して、「あまり元気ではないのではないか」と思っていました。しかし、実際に一緒にボッチャをしてみると、そのイメージは大きく変わりました。参加していた方たちはみんなとても楽しそうにしていて、私たちと同じように笑ったり、話したりしながら元気いっぱいにボッチャを楽しんでいました。私も一緒に活動する中で、とても楽しい時間を過ごすことができました。この経験から、私は「自分が勝手に持っているイメージだけで、その人のことを決めつけてはいけない」と思うようになりました。実際に関わってみなければ分からないことがたくさんあり、相手のことを知ることで、自分の考え方も変わるのだと気づきました。

そして今年は、今までとは違う新しい体験をしました。その一つが車いすに乗って街の中を移動する体験です。二人一組になり、実際に車いすを使って街の中を動き回りました。車いすを自分で動かしてみると、思っていた以上に腕に力が必要で、長い時間動かしているととても疲れました。普段なら何気なく通る道でも、車いすに乗ってみると、少しの段差や道の状態が気になりました。私は、車いすを利用している人は、毎日の生活の中で私たちが

気づかない大変さを感じているのだと思いました。

もう一つ、点字を打つ体験もしました。実際に点字を打ってみると、文字を打つこと自体はできても、それを読む人が周りにいなければ、自分の伝えたいことを伝えるのが難しいことに気づきました。普段、私たちは文字を読んだり書いたりすることを当たり前のようにしています。しかし、点字を必要としている人にとっては、生活の中で大変なことがたくさんあるのだと感じました。

私はこれらの体験を通して、相手の立場になって考えることの大切さを学びました。頭の中で「大変そうだ」と想像するだけではなく、実際に自分で体験することで初めて分かることもあります。また、福祉センターでのボッチャを通して、私は自分の中にあった思い込みにも気づくことができました。人は、知らないものに対して、自分の持っているイメージだけで判断してしまうことができます。しかし、実際に話したり、一緒に活動したりすることで、その人の本当の姿を知ることができます。私は、心の輪を広げるためには、まず相手を知ろうとすることが大切だと思います。自分とは違うところがあっても、相手のことを知ろうとする気持ちがあれば、お互いを理解するきっかけが生まれます。そして、理解できることが増えるほど、人との心の距離も近くなっていくのだと思います。これからも私は、リーダー研修会での活動を通してさまざまな人と関わっていきたいです。そして、自分の中にある思い込みに気づき、相手の立場になって考えることを大切にしたいです。一人一人が相手のことを知ろうとする気持ちを持つことで、少しずつ心の輪が広がり、誰もがお互いを理解し合える社会につながっていくのではないかと思います。